物語③ Cさん［市役所］

ゼミやインターンシップを通して、第一志望が固まった。

就活データ

- 志望業界：公務員
- インターンシップ参加：1社
- インターンシップ期間（1番長かったもの）：3日
- 開始時期：3年生6月
- エントリーシート提出：8社
- 面接社数：5社
- 内定社数：3社
- 初内定：4年生4月
- 就職先内定：4年生8月
- 就活終了：4年生8月

小学生の頃から静岡県職員として働く父の姿を見て、漠然と「地域を守り魅力を伝える人になりたい」と思っていた。だから、いつも頭の片隅に「地域・公務員」というワードがあった。

3年生では、「地域」について学べ「公務員」対策にもつながるゼミを選択した。ゼミでは、沖縄県のうるま市と協力して、「特産物のもずくを広めるためにはどうすればいいか」を、実際に現地にも足を運び、課題として取り組んだ。その成果として、文化祭でもずくの天ぷらうどんを出し、大繁盛だった。このような活動を通して、地域の魅力を発信することを通して、地域の人々と関わりたいという気持ちが強くなった。

就職活動は、3年生の6月頃から開始した。最初、母から「○○市のインターンシップ行ってみたら?」と一言もらった。今思うと、本当に参加してよかったと思う。その市は地元の市の隣の自治体だが、大きすぎずアットホームな感じで、その市役所では忙しそうな中でも楽しそうに働いている女性職員の姿が印象に残った。そのインターンシップでも、どうすれば地域の魅力を伝えられるのかを一緒に考えることがとても楽しく、居心地も良かった。そして、「ここで働きたい!」と素直に思った。

インターンシップが終わってから、大学で就活関連の情報を入手し、自己分析を進める日々を過ごした。第一志望は決まっていたものの、行ける保証はない。就活が本格化する2月末、急に焦りが出てきて、県の民間企業にもエントリーした。SNSで周りと比べて落ち込むこともあったが、幸い民間企業の面接にも進むことができた。本命の市役所の練習としても役に立った。

本命の市役所の面接では、これまで胸に秘めてきた「地域に関わりたい」「周りから信頼される人になりたい」という想いを存分にぶつけ、見事内定がもらえた。

就活では、焦ったり不安になったりすることも多かったけれど、「これがやりたい」「こうなりたい」という想いはぶれなかった。これからは地元に戻って、地域の人々とたくさん関わっていきたいと胸をわくわくさせている。

後輩へのアドバイス

選考の準備など、ぎりぎりになって焦ることが多かったので、就活では余裕を持って行動してほしい。特に面接に関しては、友達や家族を相手に練習するなど、誰かに客観的に見てもらうとよいと思う。私は妹に協力してもらったけれど、別の大学や地元の友達など、気を遣わない人とするのがおすすめだ。また、小論文では飾らずに書くことが大切だと思う。

物語⑨ Iさん［信用金庫］

お客様との関係を大切にする仕事にこだわった。

就活データ

- 志望業界：銀行、小売
- インターンシップ参加：16社
- インターンシップ期間（1番長かったもの）：3日
- 開始時期：3年生7月
- エントリーシート提出：20社
- 面接社数：12社
- 内定社数：1社
- 初内定：4年生4月
- 就職先内定：4年生4月
- 就活終了：4年生4月

私が就職先を選ぶ際は、「お客様との関係を大切にする仕事」にこだわった。その背景には、自身のアルバイト経験にある。私は、コンビニエンスストアとドラッグストアで接客業務をしていたが、最初は常連のお客様への対応がうまくできず、つまずきを感じたこともあった。だが、そこであきらめずに、先輩の動きを見ながら上手な接客方法やお客様との関係性作りを学んでいった。そのうちお客様との会話も増え、笑顔や対応をほめられることも多くなった。これにやりがいを感じたことで、卒業後もお客様との関係性を築きながらサービスを提供する仕事がしたいと考えるようになった。

内定先の企業と出会ったのは、3年生の冬だった。企業説明会で、地域に根差したサービスを提供していること、地域の方との交流を大切にしていることを知った。人事担当の方も、参加者に気遣いをしてくださるなど、とても魅力的だった。金融系の企業は、すでに数社見ていたが、この企業に出会って「ここで働きたい」という気持ちが強くなった。

キャリア支援課では、3年生の夏から自己PRの作成などでサポートを受けていた。しかし、選考が進んでくるとさらにお世話になった。特に、OGの体験談などの情報をもとに、面接で聞かれそうな質問を想定して行った模擬面接のおかげで、本番も落ち着いて対応することができた。このおかげで、無事4年生の4月に就職先の企業から内定をいただくことができた。

だが、その後何の不安もなく4年生を過ごしたかというと、そうではない。4年生の5月から夏頃まで、「本当にこの企業でいいのか」と迷うことがあった。そんなとき、このモヤモヤを解決してくれたのは、説明会でもお世話になった人事担当者だった。その方とは内定後も定期的に話をする機会があり、そこで自分の不安を率直に伝えた。その方は、私の気持ちを受け止めてくれると同時に、先輩社員と話す機会も与えてくれた。その結果、自分が説明会のときにその企業に抱いた良いイメージのまま仕事をしている様子がわかり、モヤモヤがなくなった。今は、自分の選択に納得し、この会社でがんばってみようと思っている。

後輩へのアドバイス

就活に悩みや不安はつきもの。悩んだときは、一人で抱え込まず、誰かに相談することが大事だと思う。私もゼミの先生や就職支援課の方、内定先の人事担当の方など、いろいろな人と話をさせていただいた。それも、相談にのってくれるだけでなく、「ゼミの先輩の話を聞く場」「内定先の先輩社員と話ができる場」の設定、また志望先に応じた面接指導など、不安解消の具体策まで提供してくれたので、とても感謝している。

物語④ Dさん［番組制作会社］

アルバイト仲間やゼミの友達、先生が支えになった。

就活データ

- 志望業界：マスコミ、食品メーカー
- インターンシップ参加：0社
- インターンシップ期間（1番長かったもの）：0日
- 開始時期：3年生6月
- エントリーシート提出：40社
- 面接社数：15社
- 内定社数：5社
- 初内定：4年生6月
- 就職先内定：4年生6月
- 就活終了：4年生7月

私は「テレビを通じて元気をもらった」という実体験から、将来はテレビ関係の仕事に就きたい、そんな憧れを高校生の頃から抱いていた。これは、社会マネジメント学科を選択した理由の1つでもある。この学科では自分の興味分野であるメディア系をはじめ、心理学や情報、社会など幅広いテーマに触れられる機会があり、やりたいことを見つけるには最適な環境だと思った。

また、1年生からコーヒーチェーン店でアルバイトを続けている。一緒に働く仲間には同世代が多く、アルバイト先での交流が充実していた。サークル活動や部活動には入らなかったが、アルバイト仲間が1つのコミュニティとなり、就職活動の情報収集やアドバイスも得られた。

就職活動では、第一志望は番組制作会社と決まっていたものの、選考通過が叶わなかったときに備えて食品メーカーと事務職（業界問わず）もエントリーしていた。伯母が事務職経験者であるため、実際の仕事内容や働き方について話を聞いてみた。特段興味を持ったというわけではないが、選択肢の1つとして考えてもいいと思ったからだ。

面接突破に向けて意識したのは、練習をしっかりすること、そして選考の場数を踏むことの2つだ。ゼミが終わると、友達と対面で集まり、模擬面接を繰り返し実践した。普段の何気ない会話の中でも「もし面接で●●について教えてくださいって質問されたら、どう答える?」などと選考の場で問われそうな質問を出し合い、自分の考えを整理していた。そのうちの1つの質問が実際に面接で聞かれたことがあり、そのときは本当にびっくりした。自分ひとりでは対策しきれなかったが、友達と一緒に取り組むことで、自分にはない視点での気づきが得られ、対策を打つことができると学んだ。また、メディアを専門とするゼミの教授のもとで学んでいたこともあり、教授からも就職活動におけるアドバイスをたくさんいただけた。

最終的に第一志望にしていた番組制作会社から内定を獲得することができ、入社を決意した。いまは、4月から憧れの仕事をスタートできることにワクワクしている。

後輩へのアドバイス

第一志望の企業を目指すだけでなく、同業他社や別の業界も視野に入れて活動することが大事だと思う。すでに内定を獲得した状態で、第一志望の選考に進むと気持ちに余裕をもって臨むことができる。実際、自分をよく見せようと背伸びした回答をすることなく、相手と冷静に向き合い回答することができた。また、1人で抱え込まずに、友達や先生に相談しつつ、楽しみながら就職活動したほうが、良い結果もついてくると思う。

物語⑩ Jさん［自動車販売］

キャリアカウンセラーとの面談を活かして取り組んだ。

就活データ

- 志望業界：自動車
- インターンシップ参加：0社
- インターンシップ期間（1番長かったもの）：0日
- 開始時期：3年生3月
- エントリーシート提出：5社
- 面接社数：4社
- 内定社数：3社
- 初内定：4年生6月
- 就職先内定：4年生6月
- 就活終了：4年生6月

大学入学当時はコロナ禍のため、サークル活動や部活に入る機会がなく、1年生からコンビニのアルバイトを始めた。幅広い年代のお客さんと接することが楽しく、また一緒に働く仲間の和気あいあいとした雰囲気が好きで、4年生の今も続けている。

就職活動をスタートしたのは4年生になる直前だった。3年生の秋から周囲がインターンシップや就活セミナーに参加するなど動き始めていたが、自分はやりたいことがわからず行動しなかった。大学主催のオンライン企業説明会で10社の企業から話を聞く機会があったが、どれも自分には興味が持てずにいた。業界や仕事内容を軸に志望企業を選択することが難しく、どうすればよいか悩む場面もあった。

一方で、アルバイトを通して接客業に興味が湧いたこと、地元である神奈川県内で働きたいという気持ちが強く、この2つを条件にしてエントリー先を探した。

就職活動が本格化する3年生の3月以降は、学内のキャリアカウンセラーとの面談を利用し、選考に向けた対策を開始した。多いときは、週2回の面談に通い、履歴書やエントリーシートの添削、また面接練習を繰り返し実践した。40～ 50社エントリーするのが一般的なところ、私は5社と厳選していたため、カウンセラーからはエントリー数を増やすようアドバイスをもらった。しかし、リスクがあることはわかっていたが、まずは第一志望群に絞ってチャレンジすることを決意した。ただ、選考過程で不合格通知がきたときはものすごく落ち込んだが、最終的に3社から内定を獲得することができた。

就職する内定先企業は、女性が働きやすい環境・制度が整っており、仕事内容については接客経験が活かせるお客様アテンドに加えて、事務も担当するところに魅力を感じた。私自身、自動車そのものに詳しいわけではなく特別好きでもないが、「どんな環境で働きたいか」、「どんな社会人生活を送りたいか」を考えることで、内定先企業と出会うことができた。就活は、自分自身の正直な気持ちに向き合いながら取り組め、納得のいく結果にとても満足している。

後輩へのアドバイス

私は、コロナ禍のためサークル活動や部活に入れず、アルバイト中心になっていたが、サークルや部活、ボランティアなどに参加した方が、仲間との出会いが広がり、学生生活がより充実したものになると思う。就職活動については、キャリアカウンセラーとの面接練習をぜひ実践してほしい。カウンセラーとの初めての面談は緊張したが、とても親身になってアドバイスをもらうことができ、面接対策に役立った。

相模女子大学 人間社会学部

社会マネジメント学科

2023 就活物語

本学のキャラクター
さがっぱ・ジョー

「就活物語」は、社会マネジメント学科4年生が取り組んだ就職活動のリアルな様子を、
いくつかの物語としてまとめたものです。
個別インタビューした4年生は10名と、全体の中の一部ですが、
それぞれの物語の中には苦労と努力の跡がしっかりと認められます。
社会マネジメント学科の〝出口〟の様子をお知らせするとともに、
本学科の後輩の就活に役立てられることを願い、作成しました。

Sagami Women's University